

令和元年  
人口動態統計月報年計（概数）の概況  
—島根県編—

目 次

人口動態調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

結果の概要

1 結果の要約・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

2 出 生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

（1）出生数・出生率・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

（2）合計特殊出生率・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

3 死 亡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

（1）死亡数・死亡率・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

（2）死因・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

4 婚 姻・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

5 離 婚・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

統計表

第1表 人口動態総覧（実数）の年次推移・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

第2表 人口動態総覧（率）の年次推移・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

第3表 母の年齢（5歳階級）別出生数の年次推移・・・・・・・・ 19

第4表 性・年齢（5歳階級）別死亡数の年次推移・・・・・・・・ 20

第5表 死因簡単分類別死亡数・死亡率（人口10万対）・・・・ 22

参 考

\*算出に用いた人口・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

島根県健康福祉部健康福祉総務課

T E L 0852-22-6329

F A X 0852-27-6317

## 人口動態調査の概要

### 1 調査の目的

我が国の人口動態事象を把握し、人口及び厚生労働行政施策の基礎資料を得ることを目的とする。

### 2 調査の対象及び客体

「戸籍法」及び「死産の届出に関する規程」により届け出られた出生、死亡、婚姻、離婚及び死産の全数を対象としているが、本概況では昨年1年間に日本において発生した日本人の事象を客体とした。

### 3 調査の期間

平成31年1月1日～令和元年12月31日

### 4 調査の方法

市区町村長は、出生、死亡、婚姻、離婚及び死産の届書に基づいて人口動態調査票を作成する。

### 5 報告の系統

市区町村 — 保健所 — 都道府県 — 厚生労働省  
└─ 保健所を設置する市 ─┘  
・特別区

### 6 結果の集計

集計は、厚生労働省政策統括官（統計・情報政策担当）で行った。

## 【利用上の注意】

### 1 印刷公表している人口動態統計の資料は次のとおりである。

#### <人口動態統計速報>

数 値：調査票を作成した数

集計客体：日本における日本人及び外国人、並びに外国における日本人  
(いずれも前年以前発生のもを含む)

公 表：毎月（調査月の約2か月後）

#### <人口動態統計月報>

数 値：概数

集計客体：日本における日本人（前年以前発生のもを除く）

公 表：毎月（調査月の約5か月後）

毎年（年間合計）（調査年の翌年6月）※本概況

#### <人口動態統計年報>

数 値：確定数（概数に修正を加えたもの）

集計客体：日本における日本人（日本における外国人、外国における日本人及び前年以前発生のもは別掲）

公 表：毎年（調査年の翌年9月）

2 諸率の算出基礎となる人口について

合計特殊出生率等の諸率の算出の基礎となる人口は、本「概数」においては、「令和元年10月1日現在推計人口」（総務省統計局）によるものである。

3 表章記号の規約

計数のない場合	—
統計項目のありえない場合	・
計数不明又は計数を表章することが不適切な場合	…
比率が微小（0.05, 0.00005 未満）の場合	0.0, 0.0000
減少数（率）の場合	△

なお、掲載の数値は四捨五入してあるので、内訳の合計が「総数」に合わない場合がある。

4 用語の説明

自 然 増 減：出生数から死亡数を減じたもの

乳 児 死 亡：生後1年未満の死亡

新 生 児 死 亡：生後4週未満の死亡

早期新生児死亡：生後1週未満の死亡

死 産：妊娠満12週以後の死児の出産

周 産 期 死 亡：妊娠満22週以後の死産に早期新生児死亡を加えたもの

合計特殊出生率：その年次の15歳～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子ども数に相当する。

5 この概況で使用した数値は、平成30年以前は確定数である。

6 都道府県の表章は、出生は子の住所、死亡は死亡者の住所、死産は母の住所、婚姻は夫の住所、離婚は別居する前の住所による。

## 1 結果の要約

### (1) 出生数は減少

出生数は 4,594 人で、前年の 4,887 人から 293 人減少し、出生率（人口千対）は 6.9 で、前年の 7.3 を下回った（全国第 20 位）。

合計特殊出生率は 1.68 で、前年の 1.74 を下回り、全国第 3 位（昨年 は 2 位）であった。第 1 位は沖縄県（1.82）、第 2 位は宮崎県（1.73）、第 3 位は島根県（1.68）、第 4 位は長崎県（1.66）、第 5 位は佐賀県（1.64）である。

### (2) 死亡数は減少

死亡数は 9,710 人で、前年の 9,724 人から 14 人減少した。死亡率（人口千対）は 14.6 で、前年の 14.5 を上回った（全国第 5 位）。

死因別にみると、死因順位の第 1 位は悪性新生物、第 2 位は心疾患、第 3 位は老衰となっている。全死亡に占める割合はそれぞれ 25.5%、14.2%、10.1%である。本県では平成 7 年以降、死亡者のおよそ 3 割の死因が悪性新生物となっている。

### (3) 自然増減数は減少

出生数と死亡数の差である自然増減数は△5,116 人で、前年の△4,837 人から減少数が 279 人増加し、自然増減率（人口千対）は△7.7 で、前年の△7.2 より減少率が 0.5 増加した（全国第 39 位）。本県は平成 4 年以降、死亡数が出生数を上回る自然減となっている。

### (4) 死産数は減少

死産数は 98 胎で前年の 99 胎より 1 胎減少し、死産率（出産（出生＋死産）千対）は 20.9 で、前年の 19.9 を上回った。死産率のうち、自然死産率は 11.5（前年は 10.2）、人工死産率は 9.4（前年は 9.6）となっている。

### (5) 婚姻件数は減少

婚姻件数は、2,625 組で、前年の 2,672 組から 47 組減少し、婚姻率（人口千対）は 3.9 で、前年の 4.0 を下回った（全国第 42 位）。

平均初婚年齢は夫 30.3 歳、妻 29.0 歳で、夫は前年より 0.3 歳低下、

妻は前年より 0.1 歳低下した（全国平均は夫 31.2 歳、妻 29.6 歳で、夫は前年より 0.1 歳上昇、妻は前年より 0.2 歳上昇した）。

(6) 離婚件数は減少

離婚件数は 945 組で、前年の 901 組から 44 組増加し、離婚率は（人口千対）1.42 で前年の 1.34 を上回った（全国第 42 位）。

表 1 人口動態総覧

	実数			率		平均発生間隔	
	令和元年	平成30年	対前年増減	令和元年	平成30年	令和元年	平成30年
出生	4,594	4,887	△ 293	6.9	7.3	1時間54分24秒	1時間47分33秒
死亡	9,710	9,724	△ 14	14.6	14.5	54分7秒	54分3秒
乳児死亡	10	9	1	2.2	1.8	36日12時間	40日13時間20分
新生児死亡	4	4	0	0.9	0.8	91日6時間	91日6時間
自然増減	△ 5,116	△ 4,837	△ 279	△ 7.7	△ 7.2	...	...
死産	98	99	△ 1	20.9	19.9	3日17時間23分15秒	3日16時間29分5秒
自然死産	54	51	3	11.5	10.2	6日18時間13分20秒	7日3時間45分52秒
人工死産	44	48	△ 4	9.4	9.6	8日7時間5分27秒	7日14時間30分
周産期死亡	17	18	△ 1	3.7	3.7	21日11時間17分38秒	20日6時間40分
妊娠22週以後の死産	14	15	△ 1	3.0	3.1	26日1時間42分51秒	24日8時間
早期新生児死亡	3	3	0	0.7	0.6	121日16時間	121日16時間
婚姻	2,625	2,672	△ 47	3.9	4.0	3時間20分13秒	3時間16分42秒
離婚	945	901	44	1.42	1.34	9時間16分11秒	9時間43分21秒

	令和元年	平成30年
合計特殊出生率*	1.68	1.74

\*分母に用いた人口  
5歳階級別総人口（総務省推計）

注：出生・死亡・自然増減・婚姻・離婚率は人口千対。乳児・新生児・早期新生児死亡率は出生千対。死産率は出産（出生＋死産）千対。周産期死亡率及び妊娠満 22 週以後の死産率は出産（出生＋妊娠満 22 週以後の死産）千対である。

## 2 出生

### (1) 出生数・出生率

令和元年の出生数は4,594人で、前年の4,887人から293人減少し、出生率（人口千対）は6.9（全国第20位）で、前年の7.3を下回った。出生数、出生率ともに昭和46～49年の第2次ベビーブーム以降、ゆるやかな減少傾向が続いている（図1）。

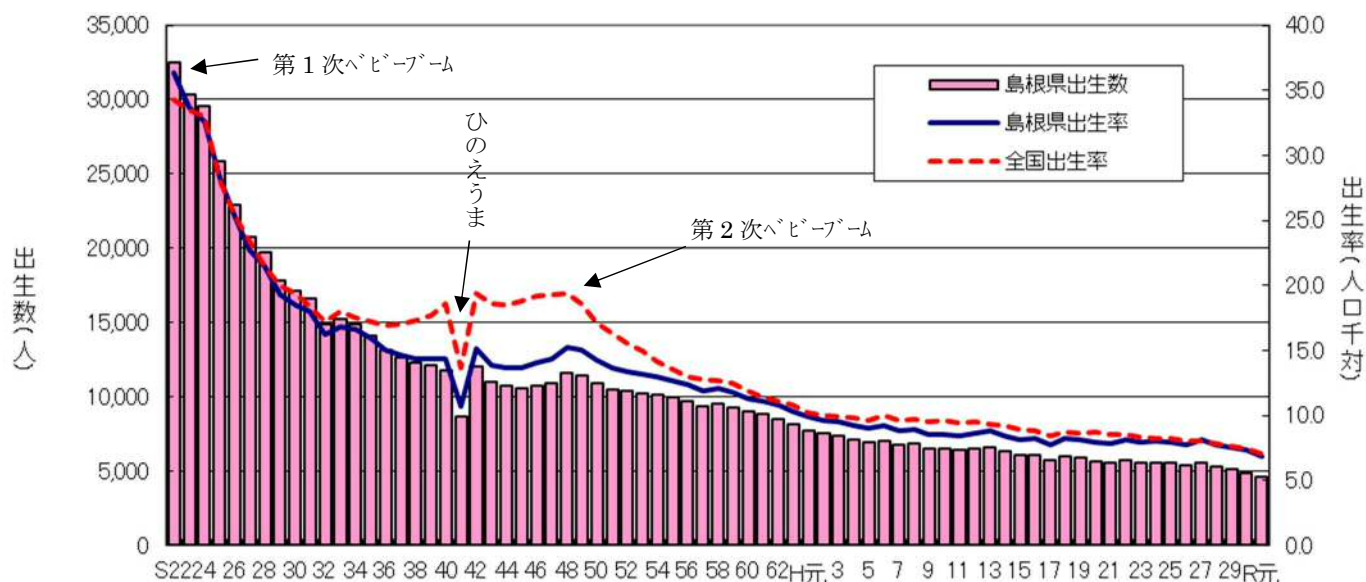


図1 出生数・出生率（人口千対）の年次推移

出生数を母の年齢（5歳階級）別にみると、15歳～19歳、35歳～39歳の各階級が前年より増加し、その他の各階級では減少した（表2）。

表2 母の年齢（5歳階級）別にみた出生数

母の年齢	出生数				対前年増減		
	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	29年－28年	30年－29年	元年－30年
総数	5,300	5,109	4,887	4,594	△ 191	△ 222	△ 293
～14歳	1	-	-	-	△ 1	-	-
15～19	70	38	32	33	△ 32	△ 6	1
20～24	472	459	455	417	△ 13	△ 4	△ 38
25～29	1,537	1,361	1,399	1,308	△ 176	38	△ 91
30～34	1,769	1,864	1,739	1,593	95	△ 125	△ 146
35～39	1,152	1,136	982	1,015	△ 16	△ 154	33
40～44	292	247	270	225	△ 45	23	△ 45
45～49	7	4	10	3	△ 3	6	△ 7
50歳以上	-	-	-	-	-	-	-

出生順位別にみると、令和元年はいずれの出生順位においても、出生数が前年より減少した（表3）。

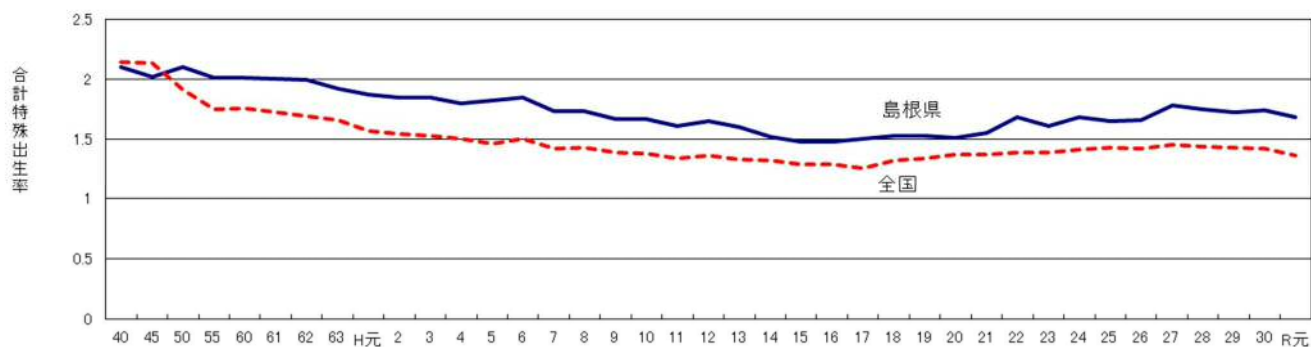
**表3 出生順位別にみた出生数の年次推移**

出生順位	出生数				対前年増減		
	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	29年－28年	30年－29年	元年－30年
総数	5,300	5,109	4,887	4,594	△ 191	△ 222	△ 293
第1子	2,190	2,025	2,021	1,827	△ 165	△ 4	△ 194
第2子	1,933	1,914	1,760	1,679	△ 19	△ 154	△ 81
第3子以上	1,177	1,170	1,106	1,088	△ 7	△ 64	△ 18

(2) 合計特殊出生率

令和元年の合計特殊出生率は1.68であった。全国と比較すると、昭和50年以降一貫して島根県が上回っており、令和元年の順位は全国第3位である(図2)。

**図2 合計特殊出生率の年次推移**



**○算出方法**

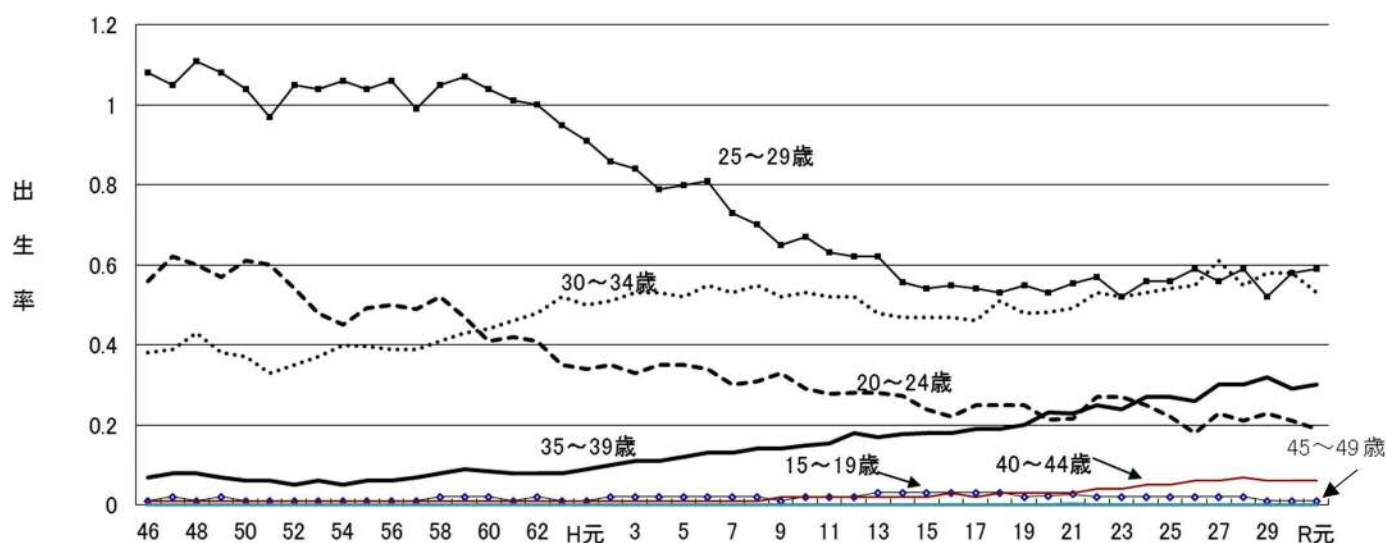
※1 ※2  
「(母の年齢別出生数) ÷ (年齢別女性人口)」の15歳から49歳までの合計

※1 (母の年齢別出生数) = (分子): 「人口動態統計」(厚生労働省)

※2 (年齢別女性人口) = (分母): 「推計人口」(総務省、ただし国勢調査年は国勢調査における日本人口)

母の年齢（5歳階級）別出生率の昭和45年以降の推移を見ると、年により多少の増減があるものの、概ね20歳代では低下傾向、30歳代では上昇傾向にある。令和元年は25～29歳、35～39歳の各階級で上昇し、20～24歳、30～34歳の各階級では下降した。（図3）。

図3 母の年齢(5歳階級)別出生率の年次推移





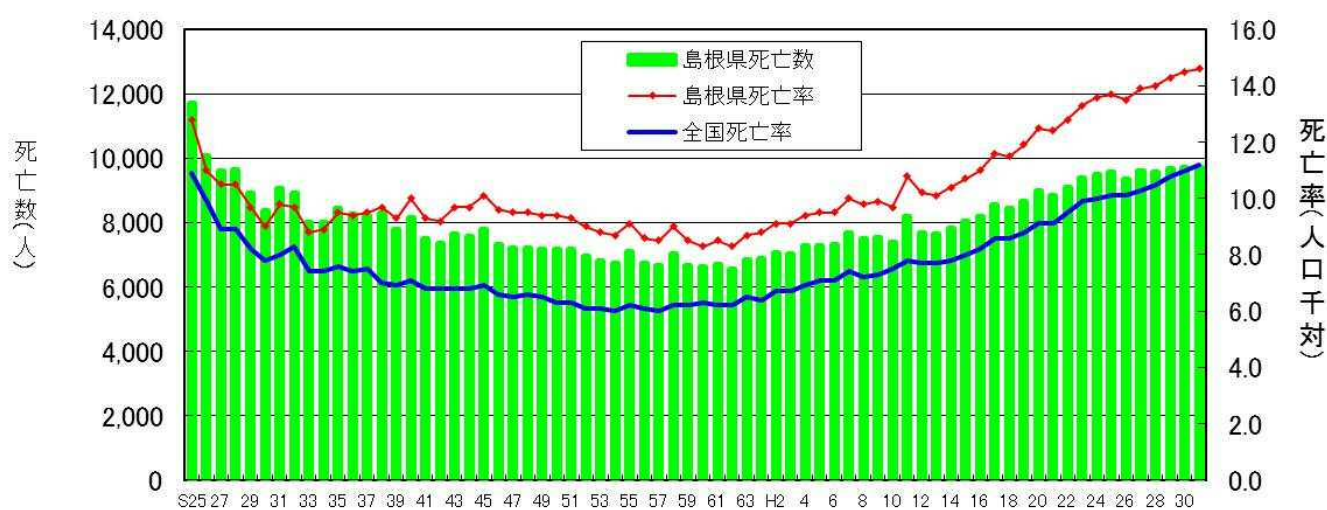
### 3 死亡

#### (1) 死亡数・死亡率

令和元年の死亡数は9,710人で、前年の9,724人より14人減少し、死亡率(人口千対)は14.6で、前年の14.5より0.1増加した。

死亡率の年次推移をみると、戦後急速に低下したが昭和30年代半ばから低下傾向が緩やかになり、昭和63年からは人口の高齢化に伴って再び上昇し始め、その後も上昇傾向を続けている(図4)。

図4 死亡数・死亡率の年次推移



年齢階級別に死亡率(人口10万対)をみると、5~9歳、10歳代、20~24歳、35~39歳、40歳代、55~59歳、65~69歳、70~74歳の各階級及び80歳以上が前年より増加し、0~4歳、25~29歳、30~34歳、50~54歳、60~64歳、75~79歳の各階級が前年より減少した。特に80歳以上の増加が大きい。

死亡率性比(男性の死亡率/女性の死亡率×100)を年齢階級別にみると、15~19歳及び30歳以上の各階級において100以上となっており、男性の死亡率が高いことを示している(表4)。

表4 年齢（5歳階級）別死亡数・死亡率（人口10万対）・死亡率性比

年齢階級	死亡数			死亡率			死亡率性比
	令和元年	平成30年	対前年増減	令和元年	平成30年	対前年増減	
総数	9,710	9,724	△ 14	1,460.2	1,449.2	11.0	103.0
0～4	11	14	△ 3	42.3	53.8	△ 11.5	76.9
5～9	2	1	1	7.1	3.6	3.5	-
10～14	3	1	2	10.3	3.4	6.9	-
15～19	5	5	0	16.1	15.6	0.5	140.7
20～24	11	8	3	45.8	34.8	11.0	-
25～29	10	12	△ 2	41.7	48.0	△ 6.3	61.1
30～34	9	15	△ 6	30.0	48.4	△ 18.4	125.0
35～39	25	23	2	71.4	63.9	7.5	141.7
40～44	42	37	5	102.4	86.0	16.4	304.8
45～49	73	56	17	169.8	133.3	36.5	207.5
50～54	73	89	△ 16	192.1	234.2	△ 42.1	217.4
55～59	138	133	5	345.0	316.7	28.3	181.6
60～64	257	288	△ 31	571.1	626.1	△ 55.0	219.5
65～69	458	482	△ 24	848.1	831.0	17.1	275.4
70～74	683	624	59	1,313.5	1,300.0	13.5	270.3
75～79	846	843	3	2,115.0	2,161.5	△ 46.5	242.4
80～	7,064	7,093	△ 29	8,310.6	8,247.7	62.9	137.2

注：死亡率性比＝男性の死亡率／女性の死亡率×100

## （2）死因

### ①死因順位

令和元年の死亡数を死因順位別に見ると、第1位は悪性新生物で2,480人（人口10万対死亡率372.9）、第2位は心疾患で1,375人（206.8）、第3位は老衰で982人（147.7）となっている（表5）。なお、全国の死因は、第1位が悪性新生物、第2位が心疾患、第3位が老衰となっている。

主な死因の年次推移を見ると、悪性新生物による死亡率は上昇を続け、昭和59年以降、死亡原因の第1位となった。心疾患の死亡率は、平成12年に死亡原因第2位となって以降上昇傾向にある。老衰の死亡率は、ほぼ横ばいで推移していたが、平成19年以降上昇し続けている。脳血管疾患の死亡率は、平成12年以降概ね横ばいで推移している。（図5）。

また、死因別の死亡率を都道府県別に比較した場合、本県はアルツハイマー病（全国第1位）、誤嚥性肺炎（第2位）、血管性及び詳細不明の認知症（第3位）の死亡率が高い水準を示している。

図5 主要死因の死亡率の年次推移

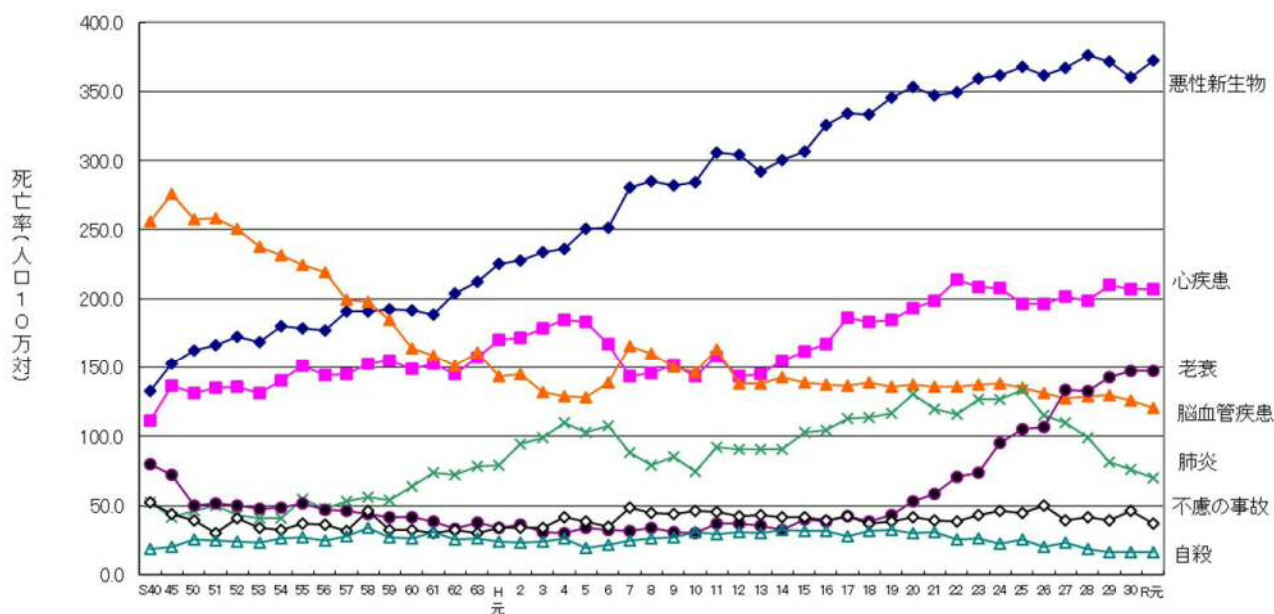


表5 死亡数・死亡率（人口10万対）・死因順位；性別

死 因	令和元年									平成 30 年		
	総数			男性			女性			総数		
	順位	死亡数	死亡率	順位	死亡数	死亡率	順位	死亡数	死亡率	順位	死亡数	死亡率
悪性新生物<腫瘍>	1	2,480	372.9	1	1,439	448.3	1	1,041	302.6	1	2,417	360.2
心疾患(高血圧性を除く)	2	1,375	206.8	2	589	183.5	2	786	228.5	2	1,388	206.9
老 衰	3	982	147.7	5	251	78.2	3	731	212.5	3	987	147.1
脳血管疾患	4	803	120.8	3	376	117.1	4	427	124.1	4	847	126.2
肺 炎	5	463	69.6	4	266	82.9	5	197	57.3	5	512	76.3
誤嚥性肺炎	6	389	58.5	6	228	71.0	7	161	46.8	6	328	48.9
アルツハイマー病	7	290	43.6	9	98	30.5	6	192	55.8	8	238	35.5
不慮の事故	8	244	36.7	7	116	36.1	9	128	37.2	7	309	46.1
血管性及び詳細不明の認知症	9	210	31.6	13	76	23.7	8	134	39.0	9	193	28.8
腎 不 全	10	198	29.8	10	95	29.6	10	103	29.9	10	180	26.8

注1)平成30年は確定数

2)平成29年より死因統計に係る分類については「ICD-10(2013年版準拠)」に変更となり、それに伴い「誤嚥性肺炎」が死因順位に用いる分類項目に追加された。

3)男性の8位は「慢性閉塞性肺疾患」で死亡数106 死亡率33.0である。

## ②年齢別死因

令和元年の死因を性・年齢（5歳階級）別構成割合から見ると、自殺の占める割合は女性が30～34歳、男性においては15～19歳、30～34歳、35～39歳が高くなっている。また、死因順位第1位の悪性新生物の占める割合は、男性は概ね40～44歳から増加し、65～69歳がピークとなっている。女性は35～39歳が最も高く、概ね40代から60代では5割以上を占めている（図6）。

図6-1 性・年齢（5歳階級）別に見た主な死因の構成割合（男性）

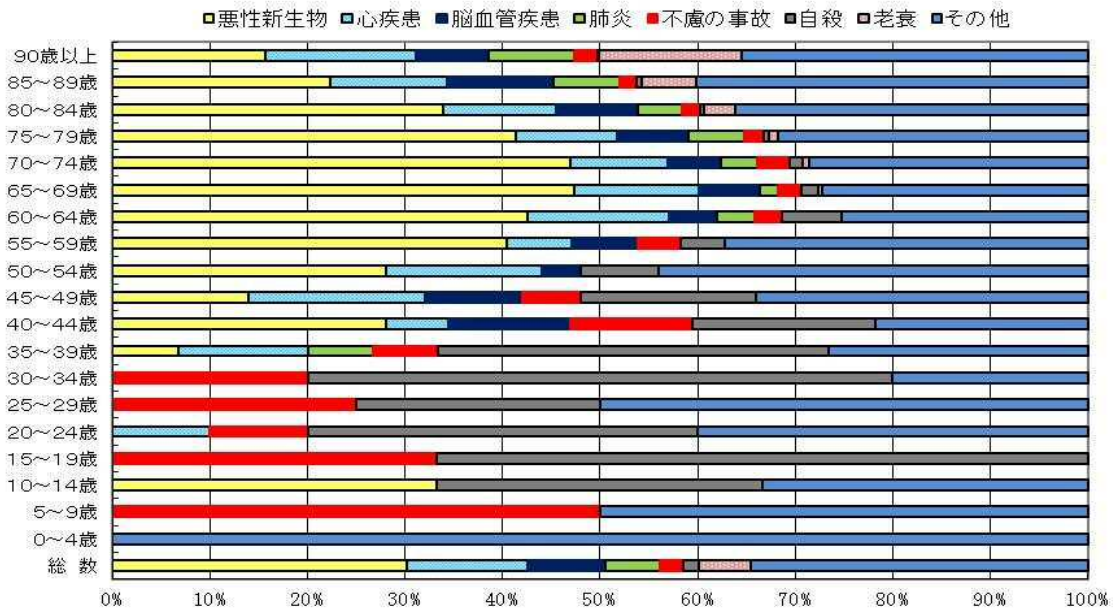
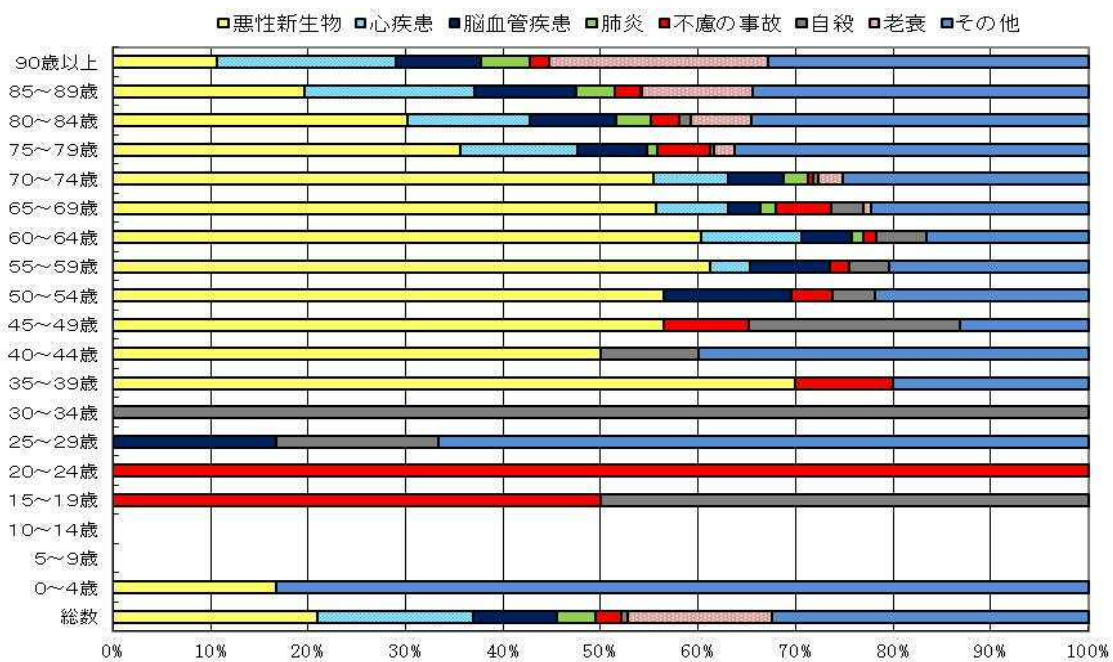


図6-2 性・年齢（5歳階級）別に見た主な死因の構成割合（女性）



### ③部位別に見た悪性新生物

悪性新生物について死亡数、死亡率（人口10万対）を主な部位別に見ると、男性では肺、肝、膵、大腸が上昇し、令和元年の死亡数は順に361人、129人、112人、174人、死亡率は順に111.4、39.8、34.6、53.7となっている。女性では胃、膵、乳房が上昇し、令和元年の死亡数は順に122人、132人、87人で、死亡率は35.1、37.9、25.0となっている。（表6、図7）。

**表6 悪性新生物の主な部位別死亡数・死亡率（人口10万対）の年次推移**

死亡数		S30	40	50	60	H8	12	17	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R元
男性	胃	250	314	293	273	263	267	230	227	242	230	218	237	216	208	207	197	<b>176</b>
	肺	19	61	82	169	250	299	363	301	352	305	347	336	363	319	305	328	<b>361</b>
	肝	54	55	65	121	206	208	191	173	155	159	143	159	137	141	122	115	<b>129</b>
	膵	8	23	26	54	84	92	89	113	100	101	114	119	119	137	118	107	<b>112</b>
	大腸*	23	42	48	79	151	163	164	168	177	192	157	175	171	178	158	148	<b>174</b>
女性	胃	165	179	202	149	159	137	152	137	137	146	149	134	116	109	130	115	<b>122</b>
	肺	8	18	32	52	109	98	107	123	101	137	112	126	118	128	139	129	<b>124</b>
	肝	37	33	35	55	89	99	90	88	85	84	103	80	76	90	88	64	<b>57</b>
	膵	6	17	24	40	68	89	92	99	128	96	101	92	115	133	121	117	<b>132</b>
	乳房	18	16	25	28	38	43	54	65	56	62	63	67	72	78	55	73	<b>87</b>
	子宮	93	71	57	40	38	25	21	36	30	30	34	35	29	26	33	38	<b>35</b>
大腸*	30	44	48	85	123	125	150	140	154	153	165	150	160	159	177	173	<b>169</b>	

死亡率		S30	40	50	60	H8	12	17	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R元
男性	胃	54.7	79.8	80.0	71.7	71.7	73.7	65.2	66.5	71.4	68.2	65.3	71.4	65.3	63.2	63.5	60.8	<b>54.3</b>
	肺	4.2	15.5	22.4	44.4	68.1	82.6	102.8	88.2	103.8	90.5	103.9	101.2	109.7	97.0	93.6	101.2	<b>111.4</b>
	肝	11.8	14.0	17.7	31.8	56.1	57.4	54.1	50.7	45.7	47.2	42.8	47.9	41.4	42.9	37.4	35.5	<b>39.8</b>
	膵	1.8	5.8	7.1	14.2	22.9	25.4	25.2	33.1	29.5	30.0	34.1	35.8	36.0	41.6	36.2	33.0	<b>34.6</b>
	大腸*	5.0	10.7	13.1	20.7	41.1	45.0	46.5	49.2	52.2	57.0	47.0	52.7	51.7	54.1	48.5	45.7	<b>53.7</b>
女性	胃	34.9	41.8	50.4	35.8	39.8	34.7	39.3	36.9	37.1	39.9	41.0	37.2	32.4	30.7	37.0	33.0	<b>35.1</b>
	肺	1.7	4.2	8.0	12.5	27.3	24.8	27.6	33.1	27.4	37.4	30.9	35.0	32.9	36.1	39.6	37.1	<b>35.6</b>
	肝	7.8	7.7	8.7	13.2	22.3	25.1	23.3	23.7	23.0	23.0	28.4	22.2	21.2	25.4	25.1	18.4	<b>16.4</b>
	膵	1.3	4.0	6.0	9.6	17.0	22.5	23.8	26.7	34.7	26.2	27.8	25.6	32.1	37.5	34.5	33.6	<b>37.9</b>
	乳房	3.8	3.7	6.2	6.7	9.5	10.9	14.0	17.5	15.2	16.9	17.4	18.6	20.1	22.0	15.7	21.0	<b>25.0</b>
	子宮	19.7	16.6	14.2	9.6	9.5	6.3	5.4	9.7	8.1	8.2	9.4	9.7	8.1	7.3	9.4	10.9	<b>10.1</b>
大腸*	6.4	10.3	12.0	20.4	30.8	31.7	38.8	37.7	41.7	41.8	45.5	41.7	44.7	44.8	50.4	49.7	<b>48.6</b>	

注：大腸の悪性新生物は、結腸と直腸S状結腸移行部及び直腸を示す。

ただし、昭和40年は十二指腸と小腸を含み、昭和50年は肛門を含む。

図 7-1 悪性新生物の主な部位別死亡率（人口 10 万対）の年次推移（男性）

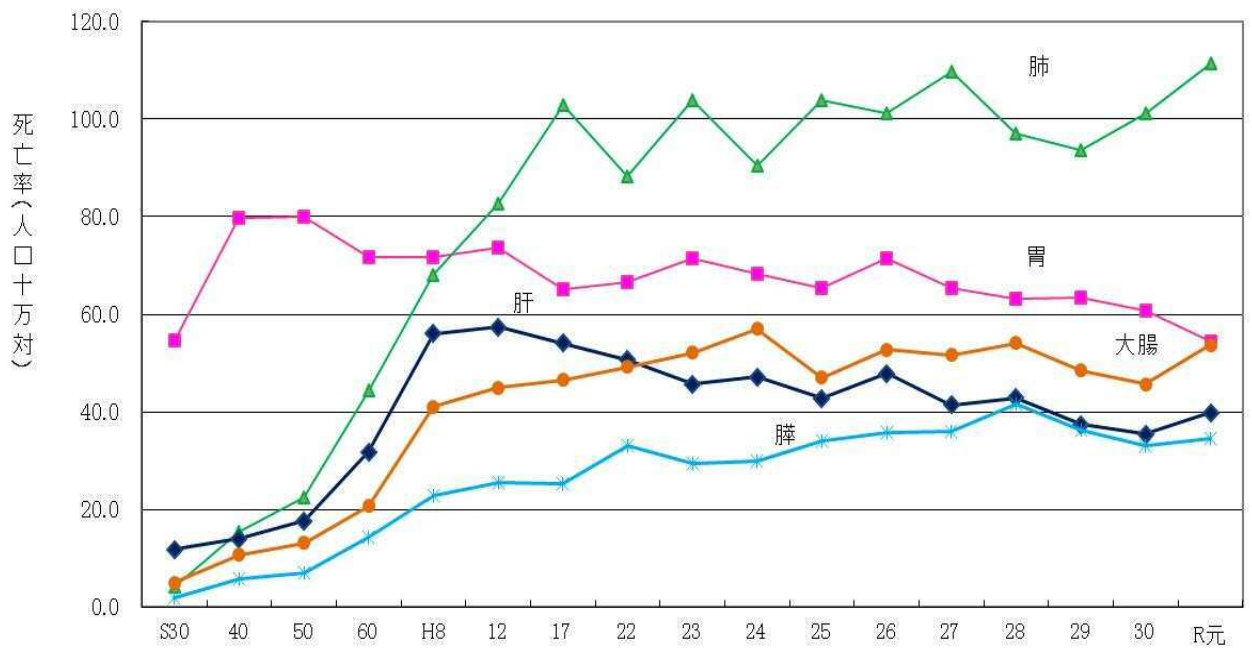
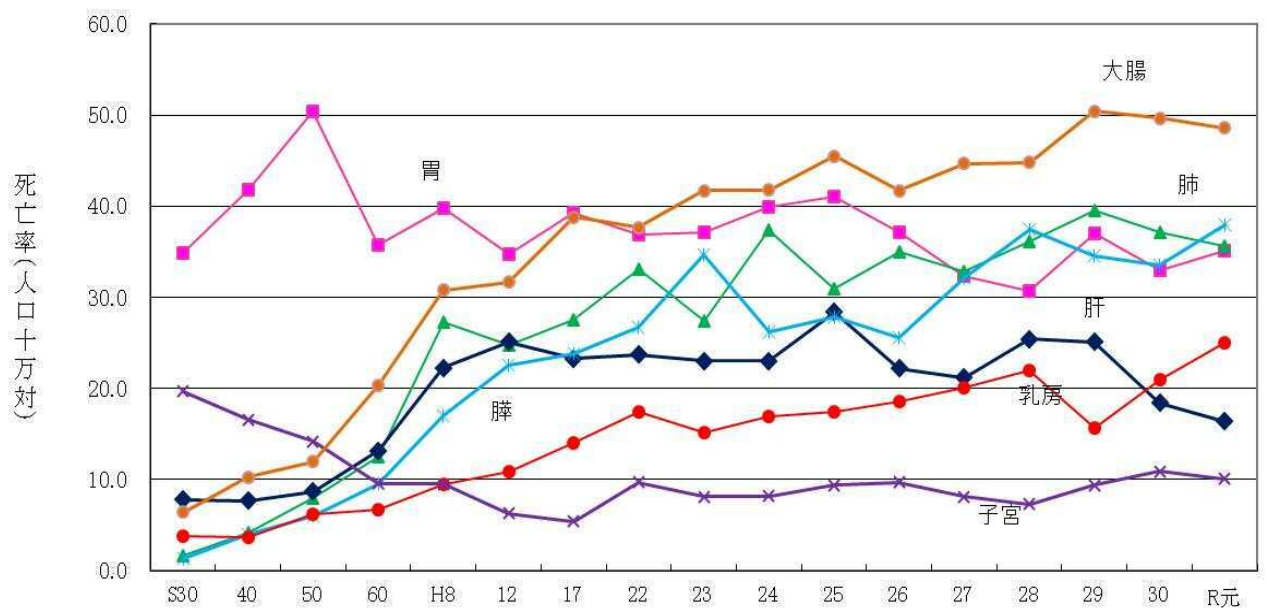


図 7-2 悪性新生物の主な部位別死亡率（人口 10 万対）の年次推移（女性）



## 4 婚姻

令和元年の婚姻件数は2,625組で、前年の2,672組から47組減少した。婚姻率（人口千対）は3.9で、前年の4.0を0.1下回った。

婚姻率の年次推移をみると、第1次婚姻ブームである昭和22、23年は高かったものの、以後急激に低下していった。その後わずかに増加に転じ、昭和33年には7.9まで回復した。また、戦後のベビーブームに生まれた子供が適齢期に達した昭和46年には再び7.5まで上昇したが、その後は年々低下し、平成元年は4.4となった。平成元年以降はほぼ横ばいに推移していたが、近年は再び低下が続いており、令和元年は、平成29年に並び過去最低の3.9となった（図8）。

平均初婚年齢は夫が30.3歳、妻が29.0歳であり、晩婚化が進行している（表7）。

図8 婚姻率の年次推移

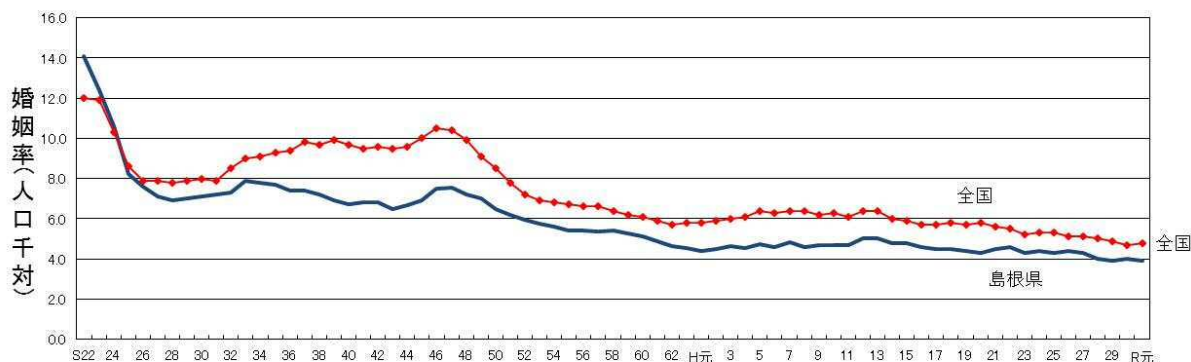


表7 平均初婚年齢の年次推移

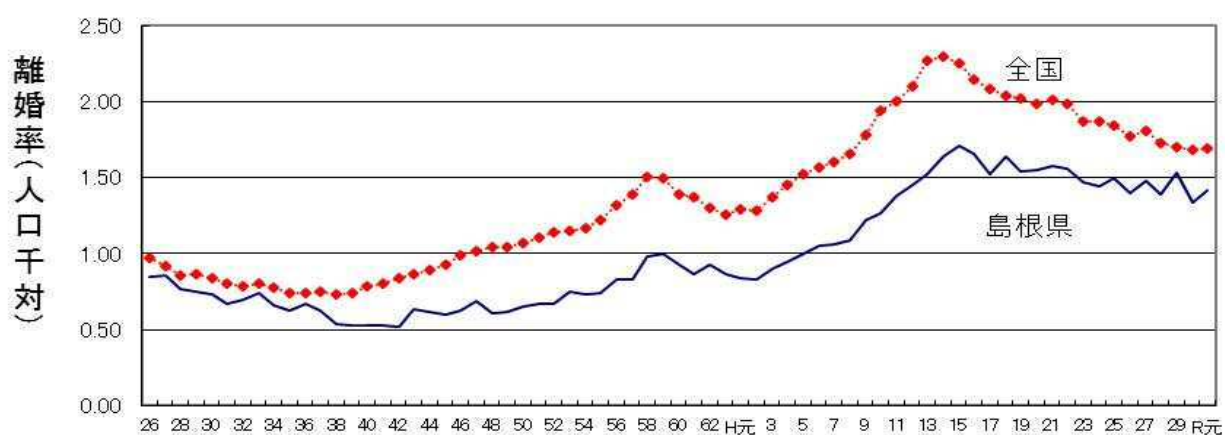
	夫		妻	
	島根県	全国	島根県	全国
昭和40	27.3	27.2	24.5	24.5
45	26.8	26.9	24.1	24.2
50	26.8	27.0	24.5	24.7
55	27.6	27.8	25.0	25.2
60	28.1	28.2	25.3	25.5
平成2	28.4	28.4	25.7	25.9
7	28.4	28.5	25.9	26.3
12	28.3	28.8	26.6	27.0
17	29.1	29.8	27.4	28.0
22	30.0	30.5	28.4	28.8
23	30.3	30.7	28.5	29.0
24	30.4	30.8	28.6	29.2
25	30.5	30.9	29.0	29.3
26	30.7	31.1	28.9	29.4
27	30.4	31.1	29.1	29.4
28	30.4	31.1	28.7	29.4
29	30.5	31.1	29.0	29.4
30	30.6	31.1	29.1	29.4
令和元	30.3	31.2	29.0	29.6

## 5 離婚

令和元年の離婚件数は 945 件で、前年の 901 組から 44 組増加した。離婚率（人口千対）は 1.42 で、前年の 1.34 を 0.08 上回った。

離婚率の年次推移をみると、昭和 42 年までは低下傾向にあったが、その後は増減を繰り返しつつ上昇し、平成 15 年には過去最高の 1.71 を記録した。その後増減を繰り返し、近年では緩やかに下降推移している。また、全国平均と比べるとはるかに低くなっている（図 9）。

図 9 離婚率の年次推移





# 統計表



昭和25年～令和元年

自然増減数	死産数			周産期死亡数			婚姻 件数	離婚 件数	年次
	総数	自然	人工	総数	妊娠満22週 以後の死産	早期新生 児死亡			
14,153	2,593	1,141	1,452	...	...	...	7,487	886	25
12,868	2,623	1,015	1,608	...	...	...	6,900	774	26
11,177	2,484	916	1,568	...	...	...	6,523	789	27
10,078	2,301	825	1,476	...	...	...	6,305	707	28
8,919	2,154	772	1,382	...	...	...	6,509	697	29
8,765	2,089	704	1,385	...	...	...	6,559	676	30
7,577	1,956	687	1,269	...	...	...	6,615	621	31
5,959	2,070	688	1,382	...	...	...	6,692	637	32
7,237	2,186	773	1,413	...	...	...	7,157	675	33
6,877	1,850	678	1,172	...	...	...	7,043	591	34
5,679	1,827	669	1,158	...	...	...	6,888	563	35
4,927	1,844	694	1,150	...	...	...	6,541	592	36
4,412	1,751	663	1,088	...	...	...	6,452	551	37
3,993	1,667	632	1,035	...	...	...	6,171	461	38
4,343	1,506	587	919	...	...	...	5,846	448	39
3,620	1,334	560	774	...	...	...	5,514	432	40
1,131	1,189	461	728	...	...	...	5,525	431	41
4,695	1,099	486	613	...	...	...	5,457	416	42
3,333	998	450	548	245	161	84	5,139	503	43
3,120	965	465	500	232	161	71	5,210	485	44
2,750	907	444	463	235	158	77	5,334	460	45
3,427	839	426	413	226	151	75	5,713	477	46
3,705	808	431	377	188	127	61	5,751	522	47
4,404	743	390	353	199	126	73	5,502	460	48
4,220	684	383	301	211	142	69	5,334	469	49
3,742	621	329	292	188	127	61	4,980	499	50
3,332	591	306	285	146	84	62	4,763	515	51
3,403	556	263	293	140	90	50	4,610	520	52
3,427	519	276	243	139	94	45	4,459	580	53
3,389	488	237	251	120	77	43	4,377	574	54
2,854	470	263	207	141	78	63	4,243	579	55
2,975	465	248	217	109	70	39	4,235	650	56
2,695	473	235	238	102	69	33	4,205	651	57
2,496	443	229	214	94	62	32	4,253	770	58
2,615	417	200	217	80	53	27	4,127	789	59
2,418	424	204	220	75	58	17	4,089	742	60
2,132	386	177	209	61	36	25	3,859	688	61
1,970	317	146	171	70	41	29	3,653	732	62
1,294	333	130	203	37	24	13	3,562	684	63
852	301	149	152	52	39	13	3,438	661	平成元年
432	291	131	160	42	25	17	3,513	645	2
345	282	111	171	35	25	10	3,587	702	3
-199	287	116	171	30	21	9	3,515	730	4
-321	254	97	157	32	24	8	3,637	769	5
-269	216	100	116	29	17	12	3,540	809	6
-923	196	92	104	49	37	12	3,699	818	7
-673	217	103	114	42	29	13	3,520	836	8
-1,036	187	70	117	33	26	7	3,562	930	9
-893	210	80	130	43	30	13	3,562	965	10
-1,810	218	87	131	44	32	12	3,570	1,050	11
-1,178	201	73	128	32	27	5	3,772	1,095	12
-1,026	209	81	128	40	33	7	3,803	1,146	13
-1,519	185	69	116	26	19	7	3,614	1,235	14
-1,958	178	64	114	29	23	6	3,569	1,278	15
-2,108	191	68	123	24	18	6	3,441	1,235	16
-2,860	170	61	109	31	24	7	3,345	1,124	17
-2,442	160	56	104	24	18	6	3,305	1,199	18
-2,746	155	67	88	31	27	4	3,203	1,119	19
-3,326	155	73	82	22	19	3	3,103	1,117	20
-3,253	144	66	78	26	24	2	3,220	1,127	21
-3,353	143	67	76	23	17	6	3,283	1,110	22
-3,830	136	51	85	13	9	4	3,058	1,043	23
-3,928	138	57	81	19	14	5	3,114	1,014	24
-4,038	131	54	77	20	16	4	2,992	1,045	25
-4,010	124	65	59	17	17	-	3,022	966	26
-4,053	107	41	66	14	10	4	2,931	1,022	27
-4,262	136	78	58	17	15	2	2,753	949	28
-4,585	110	51	59	13	9	4	2,662	1,035	29
-4,837	99	51	48	18	15	3	2,672	901	30
-5,116	98	54	44	17	14	3	2,625	945	令和元年

第2表 人口動態総覧(率)の年次推移

昭和25年～令和元年

年次	出生率 (人口千対)	死亡率 (人口千対)	乳児死 亡率 (出生千対)	新生児 死亡率 (出生千対)	自 然 増減率 (人口千対)	死産率(出産*1千対)			周産期 死亡率 (出産*2 千対)	妊娠満22週 以後の死産率 (出産*2 千対)	早期新生児 死亡率 (出生千対)	婚姻率 (人口千対)	離婚率 (人口千対)
						総 数	自 然	人 工					
昭和 25 年	28.3	12.8	63.9	...	15.5	91.9	40.1	51.0	...	...	...	8.2	0.97
26	25.2	11.0	56.8	29.4	14.1	102.6	39.7	62.9	...	...	...	7.6	0.85
27	22.7	10.5	51.7	28.5	12.2	106.8	39.4	67.4	...	...	...	7.1	0.86
28	21.5	10.5	50.3	28.0	11.0	104.5	37.5	67.0	...	...	...	6.9	0.77
29	19.3	9.7	47.0	27.6	9.6	107.6	38.6	69.1	...	...	...	7.0	0.75
30	18.5	9.0	41.2	24.8	9.4	108.5	36.6	71.9	...	...	...	7.1	0.73
31	18.0	9.8	42.1	25.4	8.2	105.3	37.0	68.3	...	...	...	7.2	0.67
32	16.2	9.7	42.4	24.2	6.5	122.2	40.6	81.6	...	...	...	7.3	0.70
33	16.8	8.8	36.1	21.4	8.0	125.4	44.4	81.1	...	...	...	7.9	0.74
34	16.6	8.9	36.7	23.4	7.6	118.5	40.9	70.8	...	...	...	7.8	0.66
35	15.9	9.5	35.1	19.6	6.4	114.6	42.0	72.6	...	...	...	7.7	0.63
36	15.0	9.4	31.2	18.0	5.6	123.1	46.0	76.3	...	...	...	7.4	0.67
37	14.6	9.5	30.9	17.8	5.1	121.9	45.9	75.4	...	...	...	7.4	0.63
38	14.4	9.7	28.6	18.8	4.7	119.3	45.2	74.0	...	...	...	7.2	0.54
39	14.4	9.3	21.6	14.0	5.2	110.7	43.1	67.4	...	...	...	6.9	0.53
40	14.4	10.0	22.8	14.5	4.4	101.6	42.7	58.9	...	...	...	6.7	0.53
41	10.7	9.3	20.6	13.9	1.4	121.1	46.9	74.1	...	...	...	6.8	0.53
42	15.1	9.2	17.1	11.8	5.9	83.4	36.9	46.5	...	...	...	6.8	0.52
43	13.9	9.7	15.9	10.2	4.2	83.2	37.5	45.7	...	...	...	6.5	0.64
44	13.7	9.7	16.0	9.0	4.0	82.7	39.8	42.8	...	...	...	6.7	0.62
45	13.7	10.1	14.1	9.2	3.6	79.2	38.8	40.5	...	...	...	6.9	0.60
46	14.1	9.6	14.0	8.7	4.5	72.3	36.7	35.6	...	...	...	7.5	0.62
47	14.4	9.5	10.6	6.9	4.9	68.8	36.7	32.1	...	...	...	7.5	0.69
48	15.2	9.5	11.4	7.5	5.8	60.1	31.6	28.6	...	...	...	7.2	0.60
49	15.0	9.4	10.6	7.2	5.5	56.6	31.7	24.9	...	...	...	7.0	0.61
50	14.3	9.4	9.6	6.8	4.9	53.7	28.5	25.3	...	...	...	6.5	0.65
51	13.7	9.3	9.8	6.6	4.3	53.2	27.6	25.7	...	...	...	6.2	0.67
52	13.4	9.0	8.9	6.1	4.4	50.8	24.0	26.8	...	...	...	6.0	0.67
53	13.2	8.8	8.2	5.3	4.4	48.2	25.6	22.6	...	...	...	5.7	0.75
54	13.0	8.7	6.8	4.9	4.3	45.9	22.3	23.6	...	...	...	5.6	0.74
55	12.7	9.1	9.5	7.1	3.6	45.1	25.2	19.8	...	...	...	5.4	0.74
56	12.4	8.6	7.3	4.8	3.8	45.7	24.3	21.3	...	...	...	5.4	0.83
57	11.9	8.5	6.1	4.1	3.4	48.1	23.9	24.2	...	...	...	5.3	0.83
58	12.1	9.0	6.3	3.8	3.2	44.4	22.9	21.4	...	...	...	5.4	0.98
59	11.8	8.5	6.6	3.6	3.3	43.0	20.6	22.4	...	...	...	5.2	1.00
60	11.3	8.3	5.2	2.9	3.0	44.7	21.5	23.2	...	...	...	5.1	0.93
61	11.1	8.5	6.8	3.4	2.7	41.9	19.2	22.7	...	...	...	4.9	0.87
62	10.8	8.3	6.0	4.2	2.5	35.9	16.5	19.3	...	...	...	4.6	0.92
63	10.3	8.7	4.8	2.3	1.6	39.2	15.3	23.9	...	...	...	4.5	0.87
平成 元 年	9.9	8.8	3.9	2.3	1.1	37.3	18.5	18.9	...	...	...	4.4	0.84
2	9.6	9.1	6.7	3.3	0.6	37.3	16.8	20.5	...	...	...	4.5	0.83
3	9.5	9.1	4.1	2.2	0.4	36.8	14.5	22.3	...	...	...	4.6	0.90
4	9.2	9.4	4.4	1.7	△ 0.3	39.0	15.7	23.2	...	...	...	4.5	0.94
5	9.0	9.5	3.6	1.4	△ 0.4	35.2	13.4	21.8	...	...	...	4.7	1.00
6	9.2	9.5	5.0	2.0	△ 0.3	29.7	13.7	15.9	...	...	...	4.6	1.05
7	8.8	10.0	4.7	2.4	△ 1.2	28.2	13.2	14.9	7.2	5.4	1.8	4.8	1.06
8	8.9	9.8	5.0	2.3	△ 0.9	30.8	14.6	16.2	6.1	4.2	1.9	4.6	1.09
9	8.5	9.9	3.5	1.5	△ 1.4	27.9	10.4	17.4	5.0	4.0	1.1	4.7	1.22
10	8.5	9.7	4.2	2.2	△ 1.2	31.3	11.9	19.4	6.6	4.6	2.0	4.7	1.27
11	8.4	10.8	4.1	2.5	△ 2.4	33.0	13.2	19.8	6.8	5.0	1.9	4.7	1.38
12	8.6	10.2	2.5	1.1	△ 1.6	29.9	10.9	19.0	4.9	4.1	0.8	5.0	1.45
13	8.8	10.1	3.5	2.3	△ 1.4	30.5	11.8	18.7	6.0	4.9	1.1	5.0	1.52
14	8.4	10.4	3.2	1.6	△ 2.0	28.4	10.6	17.8	4.3	3.2	1.1	4.8	1.64
15	8.1	10.7	3.4	1.5	△ 2.6	28.4	10.2	18.2	4.7	3.8	1.0	4.8	1.71
16	8.2	11.0	2.9	1.6	△ 2.8	30.3	10.8	19.5	3.9	2.9	1.0	4.6	1.66
17	7.7	11.6	3.2	1.2	△ 3.9	29.0	10.4	18.6	5.4	4.2	1.2	4.5	1.52
18	8.2	11.5	2.7	1.3	△ 3.3	25.9	9.1	16.9	4.0	3.0	1.0	4.5	1.64
19	8.1	11.9	2.2	1.0	△ 3.8	25.5	11.0	14.5	5.2	4.5	0.7	4.4	1.54
20	7.9	12.5	1.9	0.9	△ 4.6	26.5	12.5	14.0	3.9	3.3	0.5	4.3	1.55
21	7.8	12.4	2.0	1.1	△ 4.5	25.1	11.5	13.6	4.6	4.3	0.4	4.5	1.58
22	8.1	12.8	2.3	1.2	△ 4.7	24.2	11.4	12.9	4.0	2.9	1.0	4.6	1.56
23	7.9	13.3	2.0	0.9	△ 5.4	23.8	8.9	14.9	2.3	1.6	0.7	4.3	1.47
24	8.0	13.6	2.0	1.1	△ 5.6	24.1	10.0	14.2	3.4	2.5	0.9	4.4	1.44
25	7.9	13.7	2.3	1.1	△ 5.8	23.1	9.5	13.6	3.6	2.9	0.7	4.3	1.50
26	7.7	13.5	2.4	0.6	△ 5.8	22.6	11.9	10.8	3.2	3.2	0.0	4.4	1.40
27	8.1	13.9	1.4	1.1	△ 5.9	18.9	7.2	11.7	2.5	1.8	0.7	4.3	1.48
28	7.7	14.0	2.1	0.8	△ 6.2	25.0	14.3	10.7	3.2	2.8	0.4	4.0	1.39
29	7.5	14.3	1.8	0.8	△ 6.8	21.1	9.8	11.3	2.5	1.8	0.8	3.9	1.53
30	7.3	14.5	1.8	0.8	△ 7.2	19.9	10.2	9.6	3.7	3.1	0.6	4.0	1.34
令和 元 年	6.9	14.6	2.2	0.9	△ 7.7	20.9	11.5	9.4	3.7	3.0	0.7	3.9	1.42

注(1) 出産\*1は出生に死産を加えたもの、出産\*2は出生に妊娠満22週以後の死産数を加えたものである。

(2) 令和元年は概数である。

第3表 母の年齢(5歳階級)別出生数の年次推移

(単位:人)

昭和45年～令和元年

年次	総数	母の年齢									
		～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50歳以上	不詳
昭和45年	10,539	-	72	2,691	5,263	1,976	470	56	8	1	2
50	10,939	-	68	2,764	5,931	1,805	329	42	-	-	-
51	10,511	-	63	2,537	6,037	1,524	302	45	3	-	-
52	10,381	-	64	2,264	6,076	1,664	269	41	3	-	-
53	10,247	-	51	2,131	5,807	1,914	305	35	4	-	-
54	10,136	-	44	2,079	5,497	2,213	265	37	1	-	-
55	9,959	-	54	1,923	5,257	2,371	311	43	-	-	-
56	9,720	-	55	1,802	5,065	2,469	290	39	-	-	-
57	9,366	-	53	1,762	4,749	2,408	365	28	1	-	-
58	9,536	-	75	1,777	4,821	2,377	448	37	1	-	-
59	9,278	-	79	1,613	4,697	2,342	504	41	2	-	-
60	9,051	-	94	1,491	4,614	2,286	519	45	2	-	-
61	8,828	-	68	1,432	4,428	2,323	541	36	-	-	-
62	8,523	-	86	1,389	4,184	2,296	515	52	1	-	-
63	8,156	-	64	1,194	3,988	2,373	477	59	1	-	-
平成元年	7,759	-	70	1,170	3,638	2,310	498	72	1	-	-
2	7,510	-	89	1,175	3,391	2,242	535	77	1	-	-
3	7,390	-	113	1,138	3,191	2,329	551	68	-	-	-
4	7,081	-	88	1,191	3,011	2,212	519	59	1	-	-
5	6,959	1	91	1,184	2,885	2,190	549	58	1	-	-
6	7,068	-	107	1,208	2,909	2,196	601	47	-	-	-
7	6,764	-	109	1,155	2,694	2,144	599	62	1	-	-
8	6,828	1	83	1,175	2,815	2,071	614	67	2	-	-
9	6,518	-	64	1,170	2,604	1,982	622	72	4	-	-
10	6,491	-	73	1,052	2,661	2,003	623	76	3	-	-
11	6,394	-	76	1,004	2,630	1,974	637	71	2	-	-
12	6,522	-	93	988	2,624	1,978	735	101	3	-	-
13	6,640	-	120	1,012	2,723	2,014	684	84	3	-	-
14	6,318	-	114	984	2,453	1,974	705	83	3	2	-
15	6,092	2	105	923	2,276	1,985	712	85	4	-	-
16	6,104	-	94	894	2,204	2,066	732	112	2	-	-
17	5,697	-	104	780	2,006	1,987	721	96	3	-	-
18	6,011	-	95	796	2,015	2,223	766	114	2	-	-
19	5,914	-	70	791	1,971	2,101	852	125	4	-	-
20	5,685	-	79	682	1,807	2,026	976	113	2	-	-
21	5,601	-	87	687	1,769	1,973	968	112	5	-	-
22	5,756	-	71	691	1,795	1,986	1,049	162	2	-	-
23	5,582	1	62	654	1,672	1,958	1,075	160	-	-	-
24	5,585	-	58	600	1,687	1,906	1,124	208	2	-	-
25	5,472	-	62	524	1,681	1,961	1,113	190	3	-	-
26	5,359	1	69	471	1,659	1,858	1,055	238	8	-	-
27	5,551	-	57	539	1,542	1,985	1,156	266	6	-	-
28	5,300	1	70	472	1,537	1,769	1,152	292	7	-	-
29	5,109	-	38	459	1,361	1,864	1,136	247	4	-	-
30	4,887	-	32	455	1,399	1,739	982	270	10	-	-
令和元年	4,594	-	33	417	1,308	1,593	1,015	225	3	-	-

注：令和元年は概数である。





第5表 死因简单分類別死亡数・死亡率(人口10万対)

死因简单分類	死亡数(人)		死亡率(人口10万対)		R1 死亡総数に占める割合(%)
	令和元年	平成30年	令和元年	平成30年	
総 数	9,710	9,724	1460.2	1449.2	100.0
<b>1000 感染症及び寄生虫症</b>	<b>149</b>	<b>147</b>	<b>22.4</b>	<b>21.9</b>	<b>1.5</b>
1100 腸管感染症	14	17	2.1	2.5	0.1
1200 結核	9	10	1.4	1.5	0.1
1201 呼吸器結核	8	10	1.2	1.5	0.1
1202 その他の結核	1	-	0.2	-	-
1300 敗血症	71	63	10.7	9.4	0.7
1400 ウイルス肝炎	13	12	2.0	1.8	0.1
1401 B型ウイルス肝炎	1	-	0.2	-	-
1402 C型ウイルス肝炎	12	12	1.8	1.8	0.1
1403 その他のウイルス肝炎	-	-	-	-	-
1500 ヒト免疫不全ウイルス[HIV]病	-	-	-	-	-
1600 その他の感染症及び寄生虫症	42	45	6.3	6.7	0.4
<b>2000 新生物</b>	<b>2,572</b>	<b>2,512</b>	<b>386.8</b>	<b>374.4</b>	<b>26.5</b>
2100 悪性新生物	2,480	2,417	372.9	360.2	25.5
2101 口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物	52	48	7.8	7.2	0.5
2102 食道の悪性新生物	86	68	12.9	10.1	0.9
2103 胃の悪性新生物	298	312	44.8	46.5	3.1
2104 結腸の悪性新生物	233	228	35.0	34.0	2.4
2105 直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物	110	93	16.5	13.9	1.1
2106 肝及び肝内胆管の悪性新生物	186	179	28.0	26.7	1.9
2107 胆のう及びその他の胆道の悪性新生物	113	143	17.0	21.3	1.2
2108 膵の悪性新生物	244	224	36.7	33.4	2.5
2109 喉頭の悪性新生物	5	5	0.8	0.7	0.1
2110 気管、気管支及び肺の悪性新生物	485	457	72.9	68.1	5.0
2111 皮膚の悪性新生物	10	11	1.5	1.6	0.1
2112 乳房の悪性新生物	87	73	13.1	10.9	0.9
2113 子宮の悪性新生物	35	38	10.2	10.9	0.4
2114 卵巣の悪性新生物	24	15	7.0	4.3	0.2
2115 前立腺の悪性新生物	66	91	20.6	28.1	0.7
2116 膀胱の悪性新生物	59	56	8.9	8.3	0.6
2117 中枢神経系の悪性新生物	14	17	2.1	2.5	0.1
2118 悪性リンパ腫	99	93	14.9	13.9	1.0
2119 白血病	59	59	8.9	8.8	0.6
2120 その他のリンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物	31	36	4.7	5.4	0.3



第5表 死因簡単分類別死亡数・死亡率(人口10万対)

死因簡単分類	死亡数(人)		死亡率(人口10万対)		R1 死亡総数に占める割合(%)
	令和元年	平成30年	令和元年	平成30年	
2121 その他の悪性新生物	184	171	27.7	25.5	1.9
2200 その他の新生物	92	95	13.8	14.2	0.9
2201 中枢神経系のその他の新生物	18	13	2.7	1.9	0.2
2202 中枢神経系を除くその他の新生物	74	82	11.1	12.2	0.8
<b>3000 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害</b>	<b>28</b>	<b>25</b>	<b>4.2</b>	<b>3.7</b>	<b>0.3</b>
3100 貧血	12	11	1.8	1.6	0.1
3200 その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	16	14	2.4	2.1	0.2
<b>4000 内分泌、栄養及び代謝疾患</b>	<b>169</b>	<b>172</b>	<b>25.4</b>	<b>25.6</b>	<b>1.7</b>
4100 糖尿病	92	102	13.8	15.2	0.9
4200 その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	77	70	11.6	10.4	0.8
<b>5000 精神及び行動の障害</b>	<b>228</b>	<b>212</b>	<b>34.3</b>	<b>31.6</b>	<b>2.3</b>
5100 血管性及び詳細不明の認知症	210	193	31.6	28.8	2.2
5200 その他の精神及び行動の障害	18	19	2.7	2.8	0.2
<b>6000 神経系の疾患</b>	<b>549</b>	<b>478</b>	<b>82.6</b>	<b>71.2</b>	<b>5.7</b>
6100 髄膜炎	1	1	0.2	0.1	0.0
6200 脊髄性筋萎縮症及び関連症候群	20	25	3.0	3.7	0.2
6300 パーキンソン病	109	90	16.4	13.4	1.1
6400 アルツハイマー病	290	238	43.6	35.5	3.0
6500 その他の神経系の疾患	129	124	19.4	18.5	1.3
<b>7000 眼及び付属器の疾患</b>	-	-	-	-	-
<b>8000 耳及び乳様突起の疾患</b>	-	-	-	-	-
<b>9000 循環器系の疾患</b>	<b>2,413</b>	<b>2,506</b>	<b>362.9</b>	<b>373.5</b>	<b>24.9</b>
9100 高血圧性疾患	63	74	9.5	11.0	0.6
9101 高血圧性心疾患及び心腎疾患	33	36	5.0	5.4	0.3
9102 その他の高血圧性疾患	30	38	4.5	5.7	0.3
9200 心疾患(高血圧性を除く)	1,375	1,388	206.8	206.9	14.2
9201 慢性リウマチ性心疾患	8	16	1.2	2.4	0.1
9202 急性心筋梗塞	107	121	16.1	18.0	1.1
9203 その他の虚血性心疾患	101	109	15.2	16.2	1.0
9204 慢性非リウマチ性心内膜疾患	104	109	15.6	16.2	1.1
9205 心筋症	38	28	5.7	4.2	0.4
9206 不整脈及び伝導障害	380	391	57.1	58.3	3.9
9207 心不全	615	595	92.5	88.7	6.3
9208 その他の心疾患	22	19	3.3	2.8	0.2
9300 脳血管疾患	803	847	120.8	126.2	8.3

第5表 死因簡単分類別死亡数・死亡率(人口10万対)

死因簡単分類	死亡数(人)		死亡率(人口10万対)		R1 死亡総数に占める割合(%)
	令和元年	平成30年	令和元年	平成30年	
9301 くも膜下出血	71	77	10.7	11.5	0.7
9302 脳内出血	191	239	28.7	35.6	2.0
9303 脳梗塞	531	519	79.8	77.3	5.5
9304 その他の脳血管疾患	10	12	1.5	1.8	0.1
9400 大動脈瘤及び解離	138	151	20.8	22.5	1.4
9500 その他の循環器系の疾患	34	46	5.1	6.9	0.4
<b>10000 呼吸器系の疾患</b>	<b>1,244</b>	<b>1,256</b>	<b>187.1</b>	<b>187.2</b>	<b>12.8</b>
10100 インフルエンザ	25	25	3.8	3.7	0.3
10200 肺炎	463	512	69.6	76.3	4.8
10300 急性気管支炎	6	5	0.9	0.7	0.1
10400 慢性閉塞性肺疾患	114	142	17.1	21.2	1.2
10500 喘息	11	19	1.7	2.8	0.1
10600 その他の呼吸器系の疾患	625	553	94.0	82.4	6.4
10601 誤嚥性肺炎	389	328	58.5	48.9	4.0
10602 間質性肺疾患	129	128	19.4	19.1	1.3
10603 その他の呼吸系の疾患 (10601及び10602を除く)	107	97	16.1	14.5	1.1
<b>11000 消化器系の疾患</b>	<b>322</b>	<b>325</b>	<b>48.4</b>	<b>48.4</b>	<b>3.3</b>
11100 胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	15	10	2.3	1.5	0.2
11200 ヘルニア及び腸閉塞	48	50	7.2	7.5	0.5
11300 肝疾患	75	82	11.3	12.2	0.8
11301 肝硬変(アルコール性を除く)	36	36	5.4	5.4	0.4
11302 その他の肝疾患	39	46	5.9	6.9	0.4
11400 その他の消化器系の疾患	184	183	27.7	27.3	1.9
<b>12000 皮膚及び皮下組織の疾患</b>	<b>16</b>	<b>18</b>	<b>2.4</b>	<b>2.7</b>	<b>0.2</b>
<b>13000 筋骨格系及び結合組織の疾患</b>	<b>73</b>	<b>62</b>	<b>11.0</b>	<b>9.2</b>	<b>0.8</b>
<b>14000 腎尿路生殖器系の疾患</b>	<b>356</b>	<b>320</b>	<b>53.5</b>	<b>47.7</b>	<b>3.7</b>
14100 糸球体疾患及び腎尿細管間質性疾患	81	63	12.2	9.4	0.8
14200 腎不全	198	180	29.8	26.8	2.0
14201 急性腎不全	16	16	2.4	2.4	0.2
14202 慢性腎不全	155	138	23.3	20.6	1.6
14203 詳細不明の腎不全	27	26	4.1	3.9	0.3
14300 その他の腎尿路生殖器系の疾患	77	77	11.6	11.5	0.8
<b>15000 妊娠、分娩及び産じょく</b>	<b>1</b>	<b>-</b>	<b>0.3</b>	<b>-</b>	<b>-</b>
<b>16000 周産期に発生した病態</b>	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>0.3</b>	<b>0.4</b>	<b>0.0</b>
16100 妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	1	-	0.2	-	-

第5表 死因簡単分類別死亡数・死亡率(人口10万対)

死因簡単分類	死亡数(人)		死亡率(人口10万対)		R1 死亡総数に占める割合(%)
	令和元年	平成30年	令和元年	平成30年	
16200 出産外傷	-	-	-	-	-
16300 周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	-	2	-	0.3	-
16400 周産期に特異的な感染症	-	-	-	-	-
16500 胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	1	-	0.2	-	-
16600 その他の周産期に発生した病態	-	1	-	0.1	-
<b>17000 先天奇形、変形及び染色体異常</b>	<b>9</b>	<b>14</b>	<b>1.4</b>	<b>2.1</b>	<b>0.1</b>
17100 神経系の先天奇形	-	-	-	-	-
17200 循環器系の先天奇形	4	4	0.6	0.6	0.0
17201 心臓の先天奇形	2	3	0.3	0.4	0.0
17202 その他の循環器系の先天奇形	2	1	0.3	0.1	0.0
17300 消化器系の先天奇形	2	1	0.3	0.1	0.0
17400 その他の先天奇形及び変形	1	3	0.2	0.4	0.0
17500 染色体異常、他に分類されないもの	2	6	0.3	0.9	0.0
<b>18000 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの</b>	<b>1,130</b>	<b>1,151</b>	<b>169.9</b>	<b>171.5</b>	<b>11.6</b>
18100 老衰	982	987	147.7	147.1	10.1
18200 乳幼児突然死症候群	1	1	0.2	0.1	0.0
18300 その他の症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	147	163	22.1	24.3	1.5
<b>20000 傷害及び死亡の外因</b>	<b>449</b>	<b>523</b>	<b>67.5</b>	<b>77.9</b>	<b>4.6</b>
20100 不慮の事故	244	309	36.7	46.1	2.5
20101 交通事故	27	22	4.1	3.3	0.3
20102 転倒・転落	71	79	10.7	11.8	0.7
20103 不慮の溺死及び溺水	44	57	6.6	8.5	0.5
20104 不慮の窒息	66	83	9.9	12.4	0.7
20105 煙、火及び火災への曝露	2	1	0.3	0.1	0.0
20106 有害物質による不慮の中毒及び有害物質への曝露	1	-	0.2	-	-
20107 その他の不慮の事故	33	67	5.0	10.0	0.3
20200 自殺	110	108	16.5	16.1	1.1
20300 他殺	-	3	-	0.4	-
20400 その他の外因	95	103	14.3	15.4	1.0
22000 特殊目的用コード	-	-	-	-	-
22100 重症急性呼吸器症候群(SARS)	-	-	-	-	-
22200 その他の特殊目的用コード	-	-	-	-	-

注：(1)令和元年は概数

(2)「誤嚥性肺炎」「間質性肺疾患」「その他の呼吸器系の疾患(10601及び10602を除く)」「その他の特殊目的用コード」については、平成29年より計上

## 参 考

\* 算出に用いた人口

表1 人口総数(日本人人口) (単位:人)

	総数	男	女
人口総数	665,000	321,000	344,000

資料: 「推計人口(R元年10月1日現在)」 (総務省統計局)

表2 年齢5歳階級・男女別人口(日本人人口) (単位:人)

年齢階級	総数	男	女
<b>総数</b>	<b>665,000</b>	<b>321,000</b>	<b>344,000</b>
0～4歳	26,000	13,000	12,000
5～9歳	28,000	14,000	13,000
10～14歳	29,000	15,000	14,000
15～19歳	31,000	16,000	15,000
20～24歳	24,000	13,000	11,000
25～29歳	24,000	12,000	11,000
30～34歳	30,000	15,000	15,000
35～39歳	35,000	18,000	17,000
40～44歳	41,000	21,000	20,000
45～49歳	43,000	22,000	21,000
50～54歳	38,000	19,000	19,000
55～59歳	40,000	20,000	20,000
60～64歳	45,000	23,000	22,000
65～69歳	54,000	27,000	27,000
70～74歳	52,000	25,000	27,000
75～79歳	40,000	18,000	23,000
80～84歳	35,000	14,000	21,000
85歳以上	50,000	15,000	35,000

資料: 「推計人口(R元年10月1日現在)」 (総務省統計局)

(注)数値は千人未満の位で四捨五入しているため、合計の数値と内訳の計は必ずしも一致しない。